



熊本支部報

(社) 日本山岳会熊本支部

No. 28 平成25年1月19日
 発行 (社) 日本山岳会熊本支部
 熊本県合志市豊岡 2000-810
 松本莞爾方
 電話 096-248-4485
 発行者 工藤 文昭
 印刷 ベストプロセス

目

1. 山の日制定運動にご協力を……………工藤 文昭
2. 支援講座「始めよう山登り」……………田北 芳博
3. 追悼 西澤健一氏……………本田 誠也
4. 山の楽しみ方……………門脇 愛子
5. 宮崎ウェストン祭報告……………中林 暉幸
6. 第2回森林保全巡視登山報告……………廣永 峻一
7. 大金峰・小金峰清掃登山……………原田 榮作

次

8. 第5回脊梁山脈トレイルラン参加……………江島 博之
9. 体に鞭打ち槍ヶ岳登山……………松島 義幸
10. 九州脊梁山脈縦走登山報告……………工藤 文昭
11. 九州脊梁登山に参加して……………山本 直
12. 九州脊梁登山実施報告書……………安場 俊郎
13. 会務報告(事業報告・委員会報告) ……事務局
14. 事業案内……………事務局

「山の日」制定運動にご協力を！

熊本支部長 工藤 文昭

昨年10月3日に東京に於いて山岳5団体(日本山岳会・日本山岳協会・日本勤労者山岳連盟・日本山岳ガイド協会・HAT-J)の「山の日」制定協議会が主催し、「山の日ネットワーク東京会議」が開催されました。この会議には山岳5団体の他、既に山の日を制定している自治体、環境省、環境保全団体、野外活動グループ、数名の国会議員の参加もあり、これまでの山岳5団体の枠を越えて、「山の日」制定運動の広がりを感じました。その中で6月第1週の日曜日を中心に「山の日」制定の運動を展開していくことが確認されました。

3年前から日本山岳会は「山の日」制定への取り組みは始まっていますが、今も何の動きのない県は16県あるそうです。熊本支部でもこれまで山の日制定のリーフレットを支部事業の参加者に配布したくらいで、その他特別な取り組みもしたことはなく、この16県の中の1県であることは間違いありません。しかし、「山の日」制定運動は今後全国的規模の「山の日制定全国協議会」の発足に繋がり、国民の休日として「山の日」制定を目標にして、各支部にも長



期的、持続的な活動が求められます。熊本支部にも、他人事では済まされない時期になりました。

「山の日」ってなんだろう？

日本で「山の日」を最初に提唱したのは、日本アルパイン・ガイド協会の重野氏で、同協会が1992(平成4)年に他の山岳団体に「山の日」制定を呼びかけました。「と(10)ざん(3)」の語ろ合わせで、10月3日となっていました。しかし、これは法制化されたものではなくあまり広がりを見せませんでした。

2002年に国連の提唱で「国際山岳年2002」が「われらみな、山の民」をスローガンに開催され、1年を通して「世界中が山について考え、行動をするための年」と定め、78ヶ国が参加、日本国内でも国連決議に基づいて「国際山岳年」の趣旨に賛同した活動が各地で行われました。山に登る人も、一度も山に登ったことのない人も、山に依存しないで生きいくことは出来ない。だから、山に住む人も、都会に住む人も山の環境について考えることが大切だということで2003年以降も、12月11日を「国際山の日」として各国で活動が続くように期待されましたが、これは尻つぼみに終わりました。しかし、広島県では2002年6月に実施した「第1回ひろしま“山の日”県民の集い」が開催

され、それから毎年1万人以上が参加する一大イベントとして今も継続しています。

その他、「四国山の日」も四国四県持ち回りで開催されていますが、「毎年実施した方が啓発効果が見込める」と香川県、高知県は独自の山の日を始めています。この他にも大阪、和歌山、岐阜、山梨、静岡、群馬、栃木など、現在13県が「山の日」制定を行っています。

又、関東知事会（10県加盟）や長野県、群馬県、栃木県などは国に対して「山の日」制定および祝日化についての提案、要望を行っています。これまでに、日本山岳会でも会報、その他の文書で幾度となく「山の日」制定の趣意書は出されましたが、ここに関東知事会が国に出した「山の日」制定の提案・要望書を記してみます。

【我が国は、国土の7割を山が占めており、山の豊かな森林は、国土の保全、水資源の涵養など国民生活に不可欠な機能を有している。また、国民は、古来より山を身近な自然として親しむとともに、その生活の中で伝統文化や産業を育んできており、山は林業のみならず観光などの貴重な資源である。さらに近年、地球温暖化の影響が顕著化する中、森林の持つ二酸化炭素吸収源としての役割にも大きな期待が寄せられている。こうした山のもたらす様々な恩恵を将来にわたり享受出来るよう、国民全体が山に感謝し、山を守り育てていくための意識の向上を促すため、次の事項について提案する。

山の役割や恩恵に感謝すると共に、国民の財産として守り育てる意識の向上を促す契機とするため、「山の日」を国民の祝日として制定すること。】

これも、日本山岳会や山岳5団体が出したものとほぼ同じ内容になっています。山からもたらされる水が無くなったなら、あるいは森が無くなったなら、私達の生活はどうなるのでしょうか？直ちに生活を維持すること不可能になるでしょう。「山の日」とは、一人でも多くの人が山の環境について考えることの大切さを知り、自然を守り育てる行動を起こす極めて大きな意義を持つ日になると思います。

「海の日」があるから「山の日」も？

日本には海のない県が6県あります（滋賀、岐阜、山梨、長野、群馬、栃木）。「海の日」があるのに「山の日」がないのはどうしてか。海のない県を差別している、なんて意見もあります。元々「海の記念日」というのがありましたが、これは、明治天皇が東北巡幸からの帰りに、船で東京に帰られたのを記念して設けられましたが、休日ではありませんでした。祝日法では、夏に祝日はなく、5月5日の「こどもの日」を過ぎると、次は9月15日の「敬老の日」までなく、夏の暑い日に一つくらい祝日を設けようということで、「海の記念日」を「海の日」にしたという話もあります。「海の日」は、国民の祝日に関する法律（祝日法）では、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」ことを趣旨としています。かつては7月20日が固定の記念日でしたが、休日の集合化のために現在は7月の第3月曜日に変更されています。

「海の日」があるから「山の日」という主張には私は少し違和感がありますが、信濃日日新聞は、「山の日」制定が文化遺産として定着することを提唱しています。それによると、「海の豊かさは、多くを山によっている。山の栄養分が海に運ばれ、魚を育てる。このことを知っていた海の人は、古来から山に「魚付き林」を育ててきた。山の日制定の運動は山岳県だけでなく、海に暮らす人達とも連携できる。」としています。私も。「海の日」より、「山の日」が先に制定されるべきではなかったかと思います。

「山の日」は「登山の日」なのか・？

インターネットを覗くと、「山の日」制定についての賛否をとった結果が出ていましたが、どうも今までの運動に私達が関わるのが出来ていなかったためか、『山の日』制定の趣旨が十分に理解されていないような結果が出ていました。

どちらかという若者の意見が多いのか、「制定反対」の意見が強かったようです。「登山者を増やす目的で行われている」とか、「登山者が増えて、山にゴミを撒き散らかすだけ」、「山を思うなら登ってくるな」、「山の日つくって登山者が増えたら、

年寄りのヘリ要請が頻繁になる」。あるいは「休日は今でも多すぎる」、「いい加減、役人が休みたいだけの祝日増やすのやめろ。庶民は祝日関係なく働いている」、「休日を増やしても、休めるのは学生と公務員だけ」などの厳しい意見もありました。中にはふざけた意見も多く見られ、「川の日、空の日、山芋の日」を作れなど多数。その中で、「山海の日」などの意見もありました。

私達も、支部活性化の一つとして山岳会への加入促進については日頃から取り組んではいますが、「山の日」制定とは次元が異なる問題として取り組んでいると思います。「山の日」制定は、生きとし生けるものが心豊かに生活出来る自然環境を自ら作り、その自然の恵みに感謝しながら、美しく豊かな自然と共生し、次世代に引き継ぐことを国民の一人一人が心に銘記する日だということがしっかり心にないとこの取り組みは出来ません。今や生活環境の悪化は進み、山林の荒廃、気象変動等による自然災害、温暖化等、様々な問題が直ぐ私達の近くでも続発しています。地球環境問題を防ぎ、解決するために「山の日」を制定しようという人類、地球の未来を考えた運動で、決して登山者を増したいとか、休日を増やして休みたいなどということではありません。

これからの熊本支部の取り組み

これから3月までを準備期間として、平成25年度から支部事業の中に明確に取り組んでいきたいと考えています。支部役員会の中でも話題にはしていますが、まだ、十分な検討は進めていません。日本山岳会31支部の中でも、「森づくり」に取り組んでいる支部は沢山あります。熊本県内でも、熊本県は勿論取り組んでいますが、企業、NPO法人の中で水源涵養、防災目的の森作りを行っているところはかなりあります。これから豊かな森林を守ることを一般の人に訴えていくためには、支部としての活動を通して示すためにも、支部の森作りから取り組み始めることも必要ではないかと思えます。幸い、支部員の中に、「森づくりするのなら、土地は自分の山を提供してもよい」という奇抜な方もいらっしゃいます。県内の山岳5団体、

との協力関係もまだ構築されていませんが、これは重要なパートナー関係が出来るよう他団体と話し合いを進めます。今のところは、まだ何も出来ていない、白紙の状態ですが、4月の総会までには、「山の日」制定運動の企画を出して、皆様のご協力をお願いしたいと考えています。この運動に対する考えかた、取り組みについて会員の皆様の忌憚のないご意見を事務局までお寄せください。どうぞ、よろしく願います。

「山の日」ネットワーク東京会議

日時：2012年10月3日（水曜日）

会場：国立オリンピック記念青少年センター

わたしたち山岳5団体は、わが国に国民の祝日としての「山の日」をつくろうと、2010年「山の日」制定協議会を発足させ、微力ではありますが活動を積み重ねてまいりました。一方でわが国には10余の府県に地域ごとの「山の日」があり、さらには自然環境保護、森林育成、防災安全対策、教育、スポーツ、観光など山にかかわるさまざまな活動があります。わたしたちは今後の活動をより実りあるものにするため、各地での取り組みに学び、情報の共有化や基盤のプラットフォーム化を進めていきたいと考えます。山にかかわる広範な人々に、未来に向けた山のビジョンが求められています。3.11という未曾有の経験によって、わたしたちは山と向きあう姿勢を改めて考えさせられました。この《～みんなで山を考えよう～「山の日」ネットワーク東京会議》はそうした諸般の要請に応え、幅広いみなさまの結集を図ることを目的に開催いたします。情報を交換し、意見を出し合い、トータルな視点でこれか「山の日」制定協議会 代表幹事 成川隆頭らの活動を見据えたいと思います。

「山の日」制定協議会

代表幹事 成川隆頭

JACホームページより抜粋

勤労青少年ホーム健康づくり

支援講座「始めよう山歩き」報告書

14495 田北 芳博

1 登山講習会

場所 熊本市勤労青少年ホーム

期日 10月23日(火) 19時～21時15分

参加者 一般10名 山岳会20名 合計30名

第1部 登山の楽しみ方

日本山岳会熊本支部長 工藤文昭

健康づくりの視点から「今なぜ山登りなのか」という山登りの目的を、生活習慣病をなくす有酸素運動との捕らえ方から、登山における長時間の有酸素運動がカロリーを有効に消費し、成人病を



予防するなど、健康に優れたスポーツであるととく。そのほかなぜ山に登るのかというさまざまな登山の目的とともに、楽しみとしての登山、生涯スポーツとしての登山を勧められた。工藤支部長らしいまとまったテーマ、論旨であった。

第2部 山登りの基本

日本山岳会熊本支部事務局長 松本莞爾

登山の計画として山の選定、装備用具の準備、日程の検討、計画書の作成など順を追って説明、綿密に計画し準備をするよう指導。また、山の歩き方として、パッキング、服装、準備体操、登山路の注意点、歩き始めの留意点、休憩、登りの歩き方のコツ、下りの歩き方のコツ、長年の経験に基づくものを話された。なお、もしものことがあったらどうするかという対処法を説明、道に迷ったらどうするか、携帯電話やGPSの利用、怪我や

事故への対応等のほか、山登りのマナー等も話された。内容が多く時間が足りなかったようである。

第2日目10月30日(火) 19時～21時20分

第3部 登山の初歩的な装備

日本山岳会熊本支部事業担当役員 中林 暉幸

登山装備として、登山靴の種類、ザックの種類、服装、雨具、ツェルト、その他の必需品、テント泊に必要なもの、季節により必要なもの等に分けて話された。特に登山道具の進化について戦後の移り変わりも交えて、現代の進歩した登山道具について説明された。

第4部 自然観察

日本山岳会熊本支部自然保護・事業担当役員

廣永峻一

山に登るときの、先生が日ごろ観察されているさまざまな事象について話された。五家荘の猟犬の放し飼い、我が家の雨量計。ペットボトルで世界の山の高度と気圧を測る(高山病と高所の薄い空気)。スズメバチ、狸はトイレを持っている。オトシブミ。カッコウの巣立ち等の普段は聞けないような話がたくさんある。九州には熊がいると信じておられる廣永先生であるからこそ面白い話がたくさんあるのである。

2 実技登山



雨の中の歩行

場所 俵山(俵山峠山頂往復コース)

実施日 11月11日(日) 10時30分

萌の里駐車場集合、俵山峠登山口より往復登山

参加者 ホーム6名 山岳会17名 計23名

実技登山の状況

○登山講習会の状況

ホームへの受講申し込み者は11名であった。机上講習会は一般の参加者は両日とも7人であった。講習開始時間になっても集まりが悪く当日も受講者が全員そろうのは8時頃であった。講習あたっては、事前にテキストを作成、各講師がパワーポイントで説明する形式となった。パワーポイント使用時前方の照明を消灯する為、講師の顔が少し暗かった。廣永講師は、自然観察にいろいろとサンプルを利用されて話された。講習時間は1人50分であったので、これは講師全員にとって短すぎたと思う。

○実技登山の状況

当初計画は9時30分俵山峠登山口集合としていたが、当日の天気予報が悪いため、午後は回復するかと思い1時間遅れで、10時半萌の里集合とし、現地の天候を見て判断する事とした。10時40分登山予定者全員集合。多少小雨がある天候であったが、検討の結果、登山実施するとの結論で、支部長挨拶、リーダー紹介の後、俵山峠登山口に全員移動した。

(登山行程)

俵山峠登山口 11時33分登山開始、12時20分ベンチ、12時58分～13時20分昼食、13時48分山頂、14時下山開始、15時30分登山口

登山口直上の急登は新しいマキ道を通ったが、下草等もなく滑りやすかった。全員滑らないように歩くのに苦労した。

山行中時々小雨あり、風多少強く、概してガスっていた。山頂は特に風が強くガスっていた。ホームの参加者は初心者も多かったが、山岳会員の手助けもあり無事に登頂を果たすことができた。

今回の登山は山頂で雄大な景色を見ることはできなかったが、ホーム参加者は初心者・俵山登山の経験のないものが多く、天候は悪かったが、登山教室として良い経験になったと思われる。



第1休憩所にて



俵山山頂での記念撮影

本田誠也会員が 本年度永年会員になりました

本田会員は昭和37年(1962年)5月に本会会員となられ、1978～1980まで常任委員、1988～1991まで福支部長、そして1992～1999まで第5代支部長として熊本支部の発展に寄与され、ご活動頂きました。現在は支部顧問としてアドバイスを頂いています。

追悼

会員番号 4427

西澤 健一氏 (永年会員)

1927~2012

平成24年10月26日、元(社)日本山岳会熊本支部長の西澤健一さんが逝去された。享年84歳は天寿とも云える高齢だが、突然に急逝されたことは惜しまれてならない。

10月28日のご葬儀には、多くの支部会員とともに参列したが、永年にわたり交誼があった故人のご霊前に弔辞を捧げた。昨年6月、「引っ越しました」と転居通知のハガキを頂いた。それには「この度住み慣れた水前寺を離れ、左記の住所に転居いたしました。初めての引っ越しに戸惑うこともありましたが、色々整理をすることもでき、買い物等も便利な住宅地で、二人仲良く新しい生活を楽しみたいと思っています」とあった。晩年、病気がちだった西澤さんは、難病の奥様の介護もあって、心身共に疲労を重ねられていた。

閑静なシニアマンションに入居された聞いて安堵したことであった。生来、生真面目な西澤さんにとって、生涯初めての転居は大冒険だったのではと、微笑ましく思ったことであった。半生を熊本県庁に奉職された西澤さんは、優れた調整能力と新しい組織運営に手腕を振るわれたと聞いている。また、趣味の登山の分野でも戦後いち早く熊本山岳会、次いで熊本アルコウ会の運営に参画し、熊本県山岳連盟の設立にも関与された。

職場の熊本県庁でも山岳会を立ち上げ盛んに登山活動をされていた。昭和31年夏、当時、熊本県山岳連盟会長だった北田正三さん(阿蘇在住)が県庁を訪れ西澤さんに日本山岳会への入会を薦められた。昭和35年に予定されていた、熊本県での国民体育大会開催を控え、日本山岳会の熊本支部を設立したい目論見があったと思われる。当時、県山岳連盟の役員をしていた私どもにもJACへの入会を勧誘された、夫々の山岳会で活動していることもあり、会費が高いと思われていた日本山岳会への入会は敬遠された。ひとり西澤さんは、北田さんの懇望もだし、難く県庁山岳会員の有志にも呼びかけて入会された。そして支部熊

本支部設立に伴う総べての準備にあたることになった。その年の11月下旬、本部理事会で支部設立の承認を得たが、翌32年7月、阿蘇の北田氏宅に9名の支部設立委員が集まり、熊本支部が正式に発足した。

しかし、翌昭和33年7月にJAC熊本支部初代会長の北田正三氏が、自らのホームグラウンドであった阿蘇高岳・鷲ヶ峰の岩場に単独登攀中、滑落死亡され、発足早々の支部は、早くも存亡の危機に晒された。

支部運営の総てを任されていた西澤さんの永い苦闘の始まりだった。第二代熊本支部に三谷孝一氏を選び、西澤さんは20年にわたり支部長代行として実質的に支部運営にあたられた。

その後、第三代支部長になった西澤さんは会員の増加を図り、新たに常任委員になった田上敏行さんの助けを得て、今日までの熊本支部活動の基礎づくりをされた。

昭和62年11月、阿蘇で開催された熊本支部創立30周年記念集会には、今西寿雄日本山岳会会長をはじめ本部役員、全国各支部からの出席者も多く、熊本支部の存在を広くアピールすることができた。その間、今西錦司先生の一連の「日本の山」登山で、熊本、鹿児島、福岡など九州の山43座にご案内して感謝された。

また、昭和63年2月、日・中・ネパール3国友好チョモランマ・サガルマータ登山隊に馬場博行会員を推薦し、送り出した。九州から一人でもと西澤さんが本部役員を口説いた結果だった。

昭和62年、支部長を退任した西澤さんは初代の支部顧問に就任したが、後半生は常に支部と共にあったと云ってよいだろう。

西澤さん 有難うございました。

安らかに、お休み下さい。

合掌

熊本支部 会員番号5421 (永年会員)

本田 誠也

山の楽しみ方

8605 門脇 愛子

所請山登りが出来なくなってもう数年。でも山は好きで、山と離れたくない。そこで山を眺める旅や最近多くなった山関係のテレビ番組を見ることで、山を楽しむこの頃です。

今年の夏は、千畳敷ホテルに泊まって、木曾駒ヶ岳を登る山行を計画してもらい、参加してきました。本隊は木曾駒ヶ岳往復、足弱組は千畳敷カールのお花畑散策です。そこで充分中央アルプスの山城を実感でき、天候に恵まれて雲海の彼方に富士山や南アルプスの山脈を遠望し、充分夏山を味わうことが出来ました。木曾駒には既に4回程登っており、宝剣岳や三の沢岳「聖職の碑」(新田次郎著：映画もあった)のある尾根を下り、遭難の足跡を辿ったこともありました。しかし千畳敷カールは通過点であり、ゆっくりと散策したことはありませんでした。今回はゆっくりとお花畑を楽しみました。残念ながら黒百合は時期外れで見られませんでした・・・。

昨年は同じような意図で立山に行き、本隊は立山雄山へ、足弱組は室堂散策、ここでも初めて室堂の歴史やお花をボランティアガイドの案内でゆっくり知ることが出来ました。

また、普通の旅行でも上高地や新穂高(ロープウェイ利用)、乗鞍岳の含まれているツアーに参加し、乗鞍岳で意外に近いところでコマクサを発見し感激したことがありました。山を眺める旅でいろいろ思い出を慈しみ、楽しんでいきます。そしてそれに触発されて、かつて読んだ山の本「聖職の碑」「剣岳・点の記」「槍ヶ岳開山」(全て新田次郎著)古い本では安川茂雄の「遭難記録・山への祈り」等や前支部報にも書きました「山の歌」からも思い出が拡がり、山を楽しむ方法はいろいろあると思うこの頃です。

蛇足ながら、今夏はアイスランドに旅をし、いろいろ「火山」を体験してきました。アイスランドは自然景観豊かで、美しく、しかもエネルギーに満ち溢れる国でした。

第28回

宮崎ウェストン祭および記念山行報告

14305 中林 暉幸

例年行われている宮崎ウェストン祭、28回目を迎える今年、11月3日、高千穂町五ヶ所高原「三秀台」にて執り行われた。地元高千穂町関係者をはじめ、日本山岳会宮崎支部、東九州支部、北九州支部などの参加があり、熊本支部からはこれまでにない多数の11名が参加した。秋晴れの好天も陽が陰ると途端に寒さが身にしみる中、ウォルター ウェストンを偲んで、点鐘、黙祷、献花などの諸行事も、地元の田原小学校の子ども達を中心にした進行で行われたが、とくに児童作文の朗読などが印象的であった。

日が落ちた後、午後6時頃から五ヶ所野菜集出荷場において田原地区村おこし推進協議会主催の交流会が行われた。神事に続いて神楽などの伝統芸能あり、太鼓演舞や舞踊あり、キャンプファイヤー、バザーありで、カップ酒をふるまわれ寒さを忘れて?鑑賞した。午後8時過ぎからは、五ヶ所公民館において、地区代表者と日本山岳会の九州各支部会員との交流会となり、とくに芸達者な宮崎支部のリードと演技に圧倒される中、瞬く間に2時間が過ぎていき、翌日の記念登山も考慮し、午後10時すぎ消灯となる。



翌11月4日(日)は記念山行として、北谷登山口から祖母山登山が予定されていた。折から下り坂の天候で、午後は雨という予報の中、空模様を気にしながらも朝の冷え込みから何とか下山までもつかなと祈りながら、8時少し前、車に分乗し

第2回森林保全巡視登山 「大金峰・小金峰清掃登山」

14213 原田 榮作

期日 平成24年11月18日(日)

場所 「大金峰」(1396m)「小金峰」(1377m)

参加者 (A班) 廣永峻一・松本莞爾・中林暉幸・
橋本悦子・中田良友・金山春男・宇都宮
信夫・加藤明

(B班) 安場俊郎・工藤文昭・菅隆雄・
江島博之・原田榮作 13名

雲一つない初冬の青空

第2回森林保全巡視「大金峰山・小金峰山」清掃登山が11月18日(日)に実施された。当初、10月27日(土)に予定されていたが、雨のために2週間ほど延期された。当日はこの晩秋で一番と云っていいほどの雲一つない好天に恵まれた。午前8時に美里町「佐俣の湯」駐車場に集合して車4台に分乗し、二本杉峠まで走った。車窓の紅葉は既に落ちてしまっていて枯れ枝が冬支度をしているように感じられた。二本杉峠では早朝にも関わらず、売店や食堂の従業員の人たちがせわしく準備をしておられた。五家荘の紅葉祭りは先週までと聞いていたが、紅葉祭りの幟旗は晩秋の空の下ではためいていた。広い駐車場には4~5台の車が止まっていた。

二本杉峠駐車場でA班とB班に分かれた。

A班は朴の木集落上の林道登山口から登り、小金峰山・大金峰を経て二本杉登山口へくだるコースをとり、B班はその逆コースで二本杉登山口から大金峰・小金峰を経て朴の木集落上の林道登山口へと下る。私はB班の一員だった。B班のリーダーは安場さんで、工藤支部長、超ベテランの菅さん、植木から来られた若手の江島さんの5人だった。ベテラン揃いの中で、還暦を過ぎて山登りをはじめた自分がついていけるか心配だった。

大金峰・小金峰を「ダイキンポウ・ショウキンポウ」と発音するのか疑問だった。地元では「オオガネミネ・コガネミネ」と発音するそうである。熊本日日新聞社発行の『熊本百名山』によ

ると、「小金峰がその姿態から『鐘峰』と呼ばれていたのがそもそもの山名の起源ではなかろうか」と書かれていた。同じ訓読みでも、山と溪谷社編の『九州百名山地図帳』には、「おおがなみね」「こがなみね」とひらがなでふりがながふってあった。山の呼称も、麓の人たちの思いや時代により違うのだろうと思った。

ダラダラ登りの落ち葉道

二本杉峠から少し下った所に自家用車を10台ほど止められる駐車場があった。私たちが到着した時、久留米ナンバーのマイクロバスから15~16名の登山者が下車しておられた。県外からマイクロバスで来るほどに有名な山だろうと私の期待は膨らんだ。一行が出発した後に支度を整えていよいよ登山開始。9時5分だった。隊列は先頭がリーダーの安場さん、次が菅さん、私が3番目で、その後ろに若手の江島さん、工藤支部長がしんがりで見張られていた。登り口には「マムシに注意」の看板が立てられてあった。マムシなどの蛇が出るとは聞いていたが、看板に大きく書かれていることから判断すると、夏場は湿気が多くてマムシの生息地になっているのだろうと思った。寒くなった今は冬眠していることであろうから心配することはないだろうが。

谷川を越えると尾根道になった。紅葉はとっくに過ぎており、登山道には木の葉が幾重にも積もっていた。ダラダラ登りで歩き易かった。今回の参加者名簿でベテランばかりだったので、足手まといになってはいけないと思って家内は連れてこなかったが、これくらいの山だったら連れてきても良かったと思うほど楽な山登りだった。九州自然遊歩道の朽ちかけた立札が立てられていた。

落葉樹や杉の植林地を抜けると、大金峰の大きな三角錐の山姿が見えた。箒(ホウキ)を逆さに立てたような枯れ木越しに青空が冴え渡っていた。夏場であれば樹林帯を黙々と歩くだけで何も見えないだろうと思ったが、青空が見えるだけで気持ちちが和んだ。時計を見るとまだ1時間も経ってなかった。やがて大金峰登山口の標識があった。そこからは急な登りだった。前を登っておられる

菅さんの息遣いが少し荒くなっが、一步一步、リーダーの安場さんに離れず登っておられたので、10歳も若い私は菅さんの後ろ姿に励ましを受けた。大金峰の山頂に到着したのは午前10時30分だった。山頂の立札には1396mとあった。温度計はちょうど零度を指していたが、それほど寒いとは思わなかった。大きな木々が生い茂っていたので、枯れ枝越しに遠くの花々がかすかに見渡せるだけだった。素人登山者が山に登る目的の一つは頂上からの景観にあるので展望が良くないのは少し残念だった。

展望が良かった小金峰

大金峰山頂には10分も居らずに縦走路に引き返し、次の小金峰に向かった。広く刈り払われた背の高いスズタケの繁みの中を平坦な道が続いた。次第に高度を下げていくと、「せんだん轟・攻」への分岐の立札があった。せんだん轟への道は昔の道らしく木々が覆いかぶさって整備されていなかった。小金峰への縦走路は杉の植林の中を登ったり下ったりしながら稜線を歩いた。私たちB班が登りに差し掛かった時、朴の木集落上の林道から登って来たA班と出会った。B班は登山道に横たわっている枯れ枝を取り除くのが主で、ゴミらしきゴミは拾わなかったが、A班の人たちはそれぞれにビニール袋にたくさんのゴミを拾っておられた。「1升瓶も落ちてたよ」笑っておられた。全員が合流したところで集合写真が撮られた。交差して20分ぐらい歩いたところで、遅れて登ってこられた松本事務局長と合流した。やがて小金峰の登山口の標識があり、頂上を目指して左へ急な坂を登った。中ほどで、大人数のパーティーと出会った。多勢に無勢、私たちが道を譲った。聞くと佐賀県の小城市から来たという。パーティーは27名で歳の程も私たちと変わらないようだった。

最後の急登をひと頑張りして小金峰山頂に到着したのが12時35分だった。大金峰は全く眺望がきかなかったが、小金峰は南東側が開けていた。工藤支部長、松本事務局長、リーダーの安場さんの説明で、上福根山とか、茶白山、烏帽子岳そして白鳥山など五家荘の主要な山を一望することが

出来ました。山頂の標識には漢字で「小金峰」と書かれて下に、ローマ字で二段に、(SYOKINPOU)(KOGANEMINE)と書かれていた。標高は1377mだった。ここで小春日和のもとで昼食を摂る。

朴の木登山口までは急な下り

13時20分に小金峰の山頂を出発した。登りも大変だったが、急な坂を下るのも大変だった。10分ほどで元の縦走路に出た。これまでと同じようななだらかな縦走路だろうと思っていたが、予想に反して大変急な下りが続いた。A班の人たちはここを登ってこられたのだから、大変だろうと案じた。B班でよかったと思うほど急だった。

小金峰までの登り道は落ち葉が雨露でしっとりしていたが、午後の下り道は落ち葉が乾燥しており、足を交わす度にカラカラと乾いた音がした。滑らないように注意して下った。途中、屹立した大きな岩の東面に岩茸がたくさん生えていた。リーダーの安場さんの説明では「あれだけ大きくなるのに30～40年は係っている。」と云う事だった。13時50分に朴の木集落上の登山口に下山した。急な下りではあったが、時間的には意外に近かった。

路側に駐車してあったA班の車2台に分乗して県道445号線を飛ばして二本杉峠へ向かう。私たちが14時15分に到着した時、A班の人たちは待っておられた。朝は4～5台停まっていただけだった峠の駐車場には100台を超えるほどの自家用車が停まっており、観光客で賑わっていた。14時35分全員揃ったところで二本杉峠を出発した。帰路、二本杉から砥用へ下る林道では上りと下りの車の離合がうまくいかず、大渋滞に巻き込まれて30分ほどロスしたが、16時前には「佐俣の湯」駐車場に着いた。簡単な解団式があり、自由解散になった。「佐俣の湯」の露天風呂では紅葉を鑑賞することができた。

快晴の青空の下、登山路はよく整備されており、ゴミも少なく、清々しい清掃登山だった。

第5回脊梁山脈トレイルラン 協力に参加して

会友 江島 博之

期日平成24年9月22日(土)～23日(日)

場所 宮崎県五ヶ瀬町脊梁山脈 「向坂山」周辺

参加者 工藤文昭・松本莞爾・廣永峻一・石井文雄・
安場俊郎・中林暉幸・鶴田佐知子・江島博之・
加藤明・池田清志・北北芳博・金山春男・宇
都宮信夫 13名

昨年9月に入会しました江島博之(50歳)[熊本市北区植木町在住]といます。

以前国見山に挑戦しましたが、積雪で登頂を断念しました。ある時期新聞で日本山岳会の登山教室「国見山」の募集を見て参加したのが入会のきっかけでした。

今年は猛暑日が続いていましたが、隋兵寒合の言葉通り、熊本は初秋を感じる朝夕の冷え込む中、山都町第5回九州脊梁山脈トレイルランが開催した。日本山岳会も役割を果たすべく、工藤支部長をはじめ13名が大会スタッフとして参加協力しました。

大津の駐車場に午後3時集合し、会員の自家用車3台に乗り合わせにて出発。明るいうちに宮崎県五ヶ瀬ハイランドスキー場に到着、宿舎となるレストハウスの中で他団体(熊本県山岳連盟・加盟クラブ)との打ち合わせにて、注意事項と担当チェックポイント等の振り分けを確認しミーティング終了。午後7時に弁当・ビール等の支給があり賑やかな夕食会となる。翌時に備えて21時には寝袋に入り就寝する。

翌朝4時に起床、安場会員の自炊による朝食を取り、各々、担当のポイントへ霧雨の中随時出発をする。前回の宮崎支部との交流登山でこの脊梁山脈霧立山地を歩いた時は、好天に恵まれていた為、今回は霧立の名前通り、霧が立ち込め、それが個人的には新鮮で幻想的でした。

選手のチェックポイント10は4人体制で、工藤支部長、石井文雄さん、加藤明さんそして江島の4名で担当した。午前7時15分、レーススタート、スキー

場の気温10°C、冬を感じさせる寒さである。朝霧の中、先頭のエキスパートグループの選手が走り抜け、大会に向けたトレーニングの成果が発揮されていると思われる。それから約360名の選手がポイント10地点を昼までに通り過ぎた。前日の雨で滑りやすく転倒やスリップが続出、捻挫された選手や棄権された選手も数名おられたようだが、無事に大会が終了した。コースを迷われる選手もおられましたので、案内板やロープをもう少し多めに設置した方が良く考えた。これからはボランティア等の活動が多くなると聞いています。出来る限り参加して、貢献していきたいと思います。

最後に目的・目標を持ち、何かに挑戦することが大事と選手の方々から学んだ大会でした。

スポーツ最高!! 山海最高!! アウトドア最高!!!



九州森林管理局からのお知らせ

近年、鹿の害が多く耳にしますが、近年鹿が増えてきています。そのため笹や樹木に被害が出ていますが、九州森林管理局(営林署)では鹿の駆除を春と夏に実施しています。3月は22日ごろ五家荘一帯で一斉駆除を実施するそうです。五家荘に登山される場合はなるべく、その期日(土・日)を避けてください

体に鞭打ち槍ヶ岳登山

松島 義幸

現代の高齢化社会において、健康維持は誰でもが考えることであり、特に中高年の体力づくりとして、登山に対する憧れは強いものがある。私の職場は、退職後の第二の職場であり、若い職員の中に再任用として63～4歳の私たちが6名勤務しており、健康には敏感で何か運動をしたいとの気持ちがある。そこで飲み会のときなど登山の話面白おかしく話してきたところであり、これまで登山の経験は無いが、山に行きたいとの強い思いが芽生えてきた。2年前のある飲み会の席で、「登山するとすれば、どこに登りたいか？」との質問をすると、「最後は、元気うちに富士山か、3,000m級の山に行けないかな・・・」との答え。そこで、もう時間が無いから、富士山や北アルプスに行けるようにトレーニング登山を始めようとの提案をしたところ、「皆やろう」とのことで、月計画での近場の山から山行を開始したところである。金峰山や二の岳・三の岳、小岱山、烏帽子岳、俵山、高岳、久住山への登山を行い、皆それぞれにある程度体力には自身を付けてきた。そこで、昨年7月末には富士山に登し全員登頂することができた。「今年は槍ヶ岳へ行こうか」との提案をすると、「昨年の富士山は大変きつかったが、ある程度の自信もついてきたので、行きましょう」とのこと。そこで、再度トレーニングを行い、槍ヶ岳登山の挑戦を行ったところである。以下、登山の状況を振り返ってみると、

<7月29日(日)> 今回の山行は5人の仲間によるものである。福岡空港から松本空港へ入り、タクシーを利用し上高地には14:20に着いた。それからすぐに出発し横尾に着いたのは、17:40。すぐ、小屋への受付を済ませ二段ベッドの部屋に入る。新築でもあり、いつもの山小屋とは違った設備の良さである。石鹸の使えない風呂で汗を流し夕食をとり、明日のことを考え20:00頃には就寝。
<7月30日(月)> 朝食後、身支度を済ませ5:40には出発、槍沢ロッジ到着は7:40頃であった。途

中、なかなか進まない足に、頂上まではどうなることかと心配である。今年は残雪が多く、雪渓の横断も数カ所あり緊張するものである。私と健脚組の3人は普通の歩行の状況であるが、後の2人は、5分歩いて、2分休憩と中々歩が進まない。予定より約1時間程度の遅れだが、仕方ない。その後、天狗平で昼食を済ませ、気合を入れて出発。ジグザグの登山道を登っていくと、目的の槍ヶ岳が見えてきた。まだ遠い向こうにある槍を見て、気持ちも複雑な思いである。私は、トップを歩き皆の状況を把握していくが、歩の進まない状況は変わらず休憩を積極的にとることにする。殺生ヒュッテへの分岐まで来たところで、健脚組は先に頂上小屋へ、私も、頂上小屋までのルートを説明し、小屋の受付を済ませるため二人より先に頂上小屋へ。私の小屋への到着は14:45で延々、9時間5分の登山であった。二人の小屋到着は、それから30分後、予定時刻より遅れはしたが、しかし、皆、初めての北アルプスへの山行としては仕方ないことであり、良く頑張ったと思う。小屋の部屋に入り休憩し、夕食を済ませ、8時頃には就寝となる。私は、今日一日の総括をするため、計画書等をもとに問題点等をまとめる。そして、明日の行動計画をチェック。



槍沢を登る



<7月31日(火)> 我々は、朝食前に槍ヶ岳の頂上へ登頂するため小屋を4:45 出発、ルートに沿い5:15



槍ヶ岳山頂にて

頃頂上へ。

頂上は晴天ではあるが風が強く、記念撮影を済ませ即刻下山を開始する。登山者も未だ少なく渋滞がほとんど無かったことは、好運であった。小屋に戻り朝食。山に来たら食事の食い込みがポイントで、お替りをするように食欲があれば、心配ないと皆に話したところである。私は当然お替りをしたが、後一人以外は、お替りをするものは無かった・・・今日の下山は大丈夫かなと心配になったところである。天気は良く気合を入れて6:40 下山開始。ババ平に着いたのは、9:50 であった。10分程度休憩し出発、槍沢ロッジには10:40、横尾到着が12:20、上高地に着いたのは、16:00 であった。今日も、約9時間以上の行程となったが、皆それぞれに納得した山行となり、厳しかったとは思いますが無事に槍ヶ岳への登山ができた。その後、タクシーで浅間温泉へ向かう。温泉で、疲れを癒し翌日熊本への帰路となった。今回の登山目標を達成したことに対し、感激するとともに安心したところである。

- ・往路 横尾から山頂小屋 (所要時間 9時間 35分)
(予定時間 7時間 30分)
- ・復路 山頂小屋から上高地 (所要時間 9時間 20分)
(予定時間 8時間)

<総括> 今回の槍ヶ岳登山は、昨年富士山には登っているが、北アルプス等への山の経験の無い4人と私の5人のグループであり、一見無謀と思われがちではあったが、それなりに初心者用の山行計画を作り、槍沢ルートと比較的登りやすいルートを選択した。途中何度も何度も立ち止まり厳しい経験をしながらの登山は、これから老いて行く我々のために、自分はやれば出来ることを実証し、何よりも心のバックボーンとして一つの勲章になったのではないかと思う。これから、病気などの困難な状況に遭遇した時も、この山行が何等かの良い方向での思い出となることを期待したい。一般的に北アルプスや南アルプス等への登山は、登りに数時間、下りに数時間を要し、体力・気力が必要であり、厳しい山であることは、登山してみないと実感として分からないものである。そこに、山の良さを理解しながら、そこから山への憧れが芽生えてくるのではないだろうか。今回の4人の仲間は、本当の山の良さが理解できないところがあるかもしれないが、「やった・登れた」との思いを、心に留めながら健康で元気に過ごして頂きたい。今後とも体力の続く限り、この仲間と楽しい山行を続けたいと思っている。健康に万歳！



感激の雪溪

第4回

九州脊梁山脈縦走登山A班登山報告

8190 工藤 文昭

・A班メンバー (L) 廣永峻一、鶴田佐知子、
工藤文昭、金山春男、山本 直 (5名)

10月7日(日)の記録

午前6時起床、登山用の身支度を済ませて外に出ると満点の星空だった。放射冷却現象のためか、10月初めというのに寒さが身にしみる。しかし、今日の好天は間違いない。4時47分にB班と分かれ、峰越峠に向け出発する。真っ暗い中、曲がりくねった山道を知り尽くしたドライバーの廣永氏は飛ばす。6時半頃には峰越に着く。まだ暗く、朝食を取りながら夜明けを待つことにする。朝食は、早朝のため民宿では取れず弁当をこしらえてもらう。2つのポットにお茶と味噌汁まで用意してもらう。山村の皆さんの心の暖かさが伝わる。

6時の出発の頃には夜も明け始め、10分も歩くと東の空を真っ赤に染めて太陽が昇り始める。山の空気はさわやか、天然林とスズタケに覆われているが、登山道は立派に整備され歩きやすい。2年前にここを歩いた時には大雨になり、2時間歩いた。烏帽子岳で引き返したが、今日は3時間かかった。山本氏が烏帽子に登っていないということで私、金山氏が同行し烏帽子に登り、廣永氏等は五勇山に向かう。10時40分に五勇山で追いつき、国見岳目指して出発、途中草原状の空き地で昼食を取り、又、しばらく登ったところで、B班の皆さんと再会し、鍵の交換をしたときには12時を少し回っていた。昔この辺りは鬱蒼とした森林とスズタケに覆われていたのに、今ではスズタケは無くなり、木々も枯れて明るくなっている。国見岳山頂に近づくとつれ、立ち枯れ現象は酷くなっていた。13時半頃に国見岳山頂に着いたが、周囲はことごとく枯れ果てて、昔登った国見岳とは思えなかった。道標によると、椎矢峠までは180分と書いてあり、写真を撮って直ぐに出発。これから先も樹木の立ち枯れは続いた。現在熊本側から椎矢峠を越える林道は、崖崩れのため通行出来ず、そのためにこの何年もこのルート歩く人は少なくなり、登山道

も踏み跡さえ止めない箇所も所々にあった。登山者が着けたテープも色あせて見にくく、ルートを外さないように注意しながらの下山となった。杉の木谷ルートの分岐を過ぎると益々ルートは不明瞭、それでも何とか山池湿原に辿り付く。30年前に来たときには湿原らしく水が張っていた記憶があるが、今はすっかり乾ききっていた。湿原跡の左寄りにはっきりした掘り割りの旧道を探し出し、上り詰めると展望岩につく。これから先は、直線の尾根筋を下ればよい、という先入観があり、地図も見ずに下り始める。しっかりした尾根筋のルートは続いていたが、ところどころにコブがあり、最初のゴブ(1509m)は旧道に従いコブの右側まいて直進。この掘り割りのルートは昔大勢の人が歩いた駄賃付けの道とは後で気づいた。しかもピンクの目立つテープが付けてあり、何の疑いもなく真っ直ぐ下る。次のコブもまっすぐ乗り越えて下山していると、廣永氏が地形図を広げて「進行方向がおかしい。北に進まなければならないのに、東に進んでる。」という。そこで初めて地図を出し見る



脊梁山脈(高岳)付近の縦走路

と、なるほど真東に進んでいる。近くの天主山をさがしても、深い森林の中では葉っぱに遮られて全く確認できない。ここでルートを間違えたことが明確になった。廣永氏は、直ぐ右側に門割林道があるから、最後はそちらに下山すればよいという。地図を見ると、間違えた地点ははっきりしているので、そこまで引き返そうと歩き始めたが、既に4時をとっくに過ぎていて、ここから1時間以上も登

り返しても、その後のルートも長く明るい内に高岳は越せなくなり、ビバークも覚悟しなければならぬ。ということで門割林道に降りて、後は林道を椎矢峠迄歩こうということになった。展望岩から真っ直ぐ直線上に下りたつもりなのに、約80度くらい東にずれていて、それが幸いにも林道の真上の尾根に入っていて、難なく林道に下ることが出来た。これで今日中に帰れることになるが、既に無線機の電池もなくなり、携帯電話も圏外で、B班との連絡がとれない。心配をかけているだろうと思うがどうにもならない。廣永氏と私が椎矢峠の車を取りに行き、その他はゆっくり門割林道の入口まで出て待機することにし、目一杯の速度で歩き始める。林道入口まで約1時間、その頃には暗くなり、それから幾つもの入り込んだ谷、張り出した尾根を越えて、歩き始めから椎矢峠まで1時40分を要した。一刻も早く、B班に連絡をしなければと、急いで下山を始め、途中門割林道入口で同僚を拾い、10分も走ったところで、B班の皆さんが心配して迎えに上がってきてくれたのに出会う。申し訳なかった。尾前の民宿に着いた頃は、既に8時を回っていた。宿のご主人は、村の消防団に頼んで捜索隊を出そうかと考えていたということだった。宿の女将さんは夕食にと、おにぎりの準備までしていただいていたのには感激した。

それから疲れもあるのに、廣永、安場の両氏は交替もせず大津まで飛ばしてくれて、10時半には大津の駐車場に帰り着いた。30年も前に歩いたおぼろな記憶を頼りに、地図も見ないで、登山の鉄則を破って、皆さんにご迷惑をかけたこと、慚愧に堪えない。このままではこの年も越えられないと思いつけていた。

10月7日行動記録

午前4時起床、尾前出発 04:47 → 峰越 05:35 着 (朝食) 出発 06:00～烏帽子岳分岐 09:00～五勇山 10:40 (昼食)～国見岳 13:22～山池湿原 14:40～展望岩 15:20～道迷い 14:40～門割林道 17:10～高岳登山口 18:50～尾前民宿 20:00～大津駐車場 20:30

再び脊梁へ

廣永氏は1人で間違えた地点の現地調査も終わ



っていて、私は10月の終わりになり金山、山本両氏に電話をすると、2人ともリベンジに燃えていることがわかり嬉しかった。3人の都合を調整した結果、10月20日に再度脊梁に向かい、椎矢峠から高岳を越えて、先日歩けなかったルートを逆から辿り、間違えた地点の1509mまで登り、その周辺の調査をし、同じルートを引き返すことにした。初心者に戻り、この度辿るルートを徹底的に調べ、地図を頭にたたき込んだ。ガイドブックにも、この辺りの説明はなく、現地で地図と地形を見ながら歩く以外にないが、地図から読めることだけは地形図に書き込み、記憶した。

峰越しから五勇山(脊梁山脈)

10月20日、朝6時に熊本を出発、蘇陽経由で椎葉に入ったが、椎矢峠まで4時間も掛かった。熊本側の林道補修が出来れば1時間半位では着くのに、えらい回り道である。途中、10月にお世話になった民宿御前にお礼に立ち寄ったが、ここから椎矢峠までも1時間は掛かった。10時半頃から高岳目指して登り始める。急斜面の取り付け点を右斜めの登ると緩やかな斜面になり、右側の谷に沿って登る。研究していた地図によると一旦大きく左にトラバースして、引き返すように右斜めにカーブしながら尾根に取り付くようになっているが、今では左側の谷から外れたら、少しずつ東側に回り込みながら直接頂上をめざすルートになっている。踏み跡はほとんど無く、あっても落ち葉で隠れてしまい不明瞭、僅かに残る古いテープを

丹念に捜しながら何とか高岳の頂上に着いた。ここから縦走コースに入るために下りになるが、ここで尾根を取り違え、150m位下ったところでGPSを見ると、明らかに西にずれすぎていることがわかった。前回ルートの間違った時にはGPSは持って行かなかったが、その反省から今回は携行すると、直ぐに役立った。少し引き返し、東に移動すると立派な掘り割りの道が出てきて、それがGPSが示すルートに重なってきた。しばらく歩くと、頂上から降りてきたルートらしいテープも探し出した。この辺りの部分的な地図しか持ってきていなかったので、その時はわからなかったが、帰宅して調べてみると、これは不土野方面から脊梁を超えて肥後の国に繋がる駄賃付けの道だろうということがわかった。道幅も1.5m~2mはある道だが、人の往来で掘り割りの道になり、今は落葉が堆積して、厚い絨毯の上を歩くようだった。先月歩いたB班の人からもそんなことは聞いていなかったのだから、まだまだこれが正しいルートとは確信できなかったが、この後はこの掘り割りの道を辿ると、前回分かれ道を見落とした1509mの分岐点に辿りつけた。展望岩から下ってきて、一番目のコブを過ぎたところで直角に左折しなければならぬのに、高岳方面を示す標識はなく、テープもかなり引き込んだところに付けてあったことと、上から降りてきたとき、分岐の正面に目立つテープが2ヶ所付けてあり、それに誘われて入り込んだのだろう。勿論、この道も次のコブまでは耳川溪谷から不土野に通ずる旧道の一部だから間違いに気づくはずもなかった。高岳から続く駄賃付けの道は、この1509mの分岐点から私達が前回歩いた展望石、山池湿原を通り、不土野の雷坂登山口に下る昔からの駄賃付けの道でもある。その事を知っていれば、又、しっかり地図とともに行動していればこんな失敗は起こさなかったのに、私の山に対する慢心がこの失敗を招いた。廣永氏手作りの標識を預かってきたので、分岐点に取り付けて、進む方向が明確になった。帰りには古くなったテープの取り替えや、それでも不明瞭な地点には付け加えた。駄賃付けの道には

いると間違ふところはなく、これで無事脊梁の完全縦走は成し遂げることが出来た。今回の再登山で最もわかりにくい所は高岳の登り、下りだった。今回は厚い落葉に埋もれて、元々少ない踏み跡も殆ど確認できなかった。この辺りにはテープを付けすぎるくらい残してきた。

今回、正規のコースを歩いてみて感じたことは、前回、ルートの間違いに気づいて、分岐点まで引き返していたなら、高岳を越えて、椎矢峠の車にたどり着くことは、まず出来なかつたであろうということだった。間違いに気づいた時は、既に4時

を過ぎており、そこから1時間以上もかけて見過ごした分岐点まで引き返し、それから高岳を目指しても、途中

で暗闇になり、又、高岳に着いたとしても、はっきりしたルートがない夜の高岳は越えられるはずはなかった。だから、素直に赤旗を掲げて、林道に逃げたのは、結果としては正解だった。その他、通信機器の使用についても、入山したら、個人の使用ではなく、パーティーとしての管理も必要なことも痛感した。とにかく何とかその日の内に帰宅することは出来たが、遭難騒ぎにもなりかねなかった。恥ずかしながら、この報告書は私の失敗の懺悔録として残しておかなければならない。二度と、このようなミスを繰り返さない自戒のために。

10月20日の記録 天気快晴

熊本出発 0600 → 尾前民宿 08:05 →

椎矢峠登山口 10:06~登山開始 10:28~

高岳頂上 11:11~高岳南最初のコル 11:55~

P 1509m 13:45(14:48 出発)~高岳 15:41~登山

口 16:07~御前民宿 17:00~熊本着 20:45

(完)



間違えやすい高岳付近の道標設置

2012年第4回九州脊梁縦走登山B班報告

13889 安場 俊郎

九州脊梁縦走登山は、熊本支部が九州の尾根を歩いて、五家荘の自然と歴史を学ぶ機会にするため計画され、平成20年から、実施してきた。

今年はこのシリーズの一応の最終として、残る国見岳付近の稜線を縦走した。内大臣林道が発電所付近で崩落し、使用不能のため、椎葉村尾前の民宿に前泊。

10月6日(土)

椎矢峠(1470m)～三方山(1578m) 往復

10月7日(日) 参加者を2分し、峰越峠と椎矢峠登山口の双方から出発し、途中で車のキーを交換するクロス登山を実施した。

A隊 工藤、廣永、鶴田、金山、山本、
峰越峠(1500m)～鳥帽子岳(1691m)～
五勇山(1662m)～小国見岳(1708m)
国見岳(1738m)～山池湿原(1420m)～
高岳(1563m)～椎矢峠(1470m)

B隊 安場、石井、中林、千々岩、米原、
A隊の逆コース 椎矢峠登山口～峰越峠

10月6日(土)

午前7時10分前 大津町生涯学習センタ駐車場に全員集合。工藤支部長挨拶のあと、廣永、安場の車2台に分乗し、7時出発。高森～五ヶ瀬町を經由し、椎葉村尾前の民宿の9時40分頃到着し、民宿のご主人に挨拶のあと未舗装の椎矢林道を約1時間で椎矢峠着。ここから内大臣林道へは未舗装ながら乗用車が通行可能となるように整備されたのだが、惜しいことに昨年初、発電所付近の路肩が大規模崩落し、当分熊本県側には通り抜けが不可能になっている。峠から三方山までは脊梁縦走シリーズとしては未通過の区間なので、短い往復登山を実施したものである。峠から三方山の山頂までは荒れた林道を約40分、頂上で昼食、登山道を北へ下り、峠には13時到着し、1日目の山行終了。

10月7日(日)

4時起床、朝と昼の弁当2個を持って4時45分、A隊は峰越峠へ、B隊は椎矢峠に向けて出発。5:55峠着 朝食、6:32高岳までは斜面の急登。高岳

三角点はピークの東30m地点にある。ピークに戻り尾根を西に80mで南へ斜面を下ると、昔の牛馬道に出るので、国見岳へはおおむねその道を進む。近年、あまり利用されていないせいか、赤テープも少なく、コース取りに若干、手間取る。スズタケはまったく見られなくなり、倒木も多く荒れている感じがする。国見岳付近まで灌木が枯れて見通しが良くなった。杉の木谷登山道付近に近づくと五勇山付近のA隊との交信が可能になり、10:53国見岳山頂に到着。昼食とする。快晴で、日蔭のなくなった山頂は暑い。11:44出発した。12:35、A班と交差、記念写真撮影、車のカギを交換し、五勇岳から鳥帽子岳を経て、ゴールの峰越峠に、16:25全員無事到着した。峠でティータイムのあと18:00尾前の民宿に到着した。A班の到着が大幅に遅れたため、無線が傍受できるところまで全員で椎矢林道を迎えに行くが、下山するA班と途中で会うまで交信できなかった。原因は電池切れとのこと。A隊は山池湿原を過ぎてから雷坂方面に下ってしまい、日没が迫ってきたため、門割林道へ下山、林道を1時間半ほど歩いて椎矢峠の車を回収し、全員を乗せて下山してきたため遅くなったとのこと。

双方の宿着は8時を過ぎており、心配していた宿の方にお茶をご馳走になったうえ、途中でお腹がすかないようオニギリまでいただいて帰路についた。

22:30 大津到着、解散。(以上B隊行動)

反省点

帰着が大幅に遅れたが、全員事故もなく無事この行事を完成することができた。皆様の協力とガンバリに感謝します。

- 1、無線は145.64MHzで双方2台所持したが、途中に国見岳が電波を遮り、国見岳付近に近づくまで、交信不能のため、双方の情報交換ができなかった。
- 2、起伏の多い山道で距離16.5Kは少し長すぎたかもしれない。
- 3、国見岳～椎矢峠は利用者が少ないためか、コースが明瞭でない箇所があった。

九州脊梁山脈縦走に参加して

会友 山本 直

山にヘッドランプは必須であり、常に持参してはいるが、今まで使ったことといえば、キャンプの時か、台風等による停電のときくらいであった。今回初めて使用することになるとは……………。

前日は、椎矢峠から三方山まで軽く足慣らし、本日は峰越から烏帽子岳、五勇山、国見岳、高岳、椎矢峠まで縦走し、椎矢峠からのメンバーと、途中国見岳付近で、車のキーを交換する予定であった。距離は、いつもの山行よりかなり長いと覚悟していたが、いつもリーダーのペースについて行くだけなので。

峰越で朝食を食べ、一息して6時少し前から登り始める。すぐに夜が明け、抜群の天気。烏帽子岳までは緩い登り、ペースは極ゆっくり、淡々と歩く。9時頃烏帽子岳到着。烏帽子岳からは、石楠花の樹木中のあまりアップダウンのない道を、「時期になったら花がすごいだろう」などと考えながら、10時半過ぎ五勇山到着。五勇山から国見岳の間で昼食を取り、途中椎矢峠からのメンバーと車のキーを交換、写真撮影などを行い、小国見は迂回して、13時20分頃国見岳到着。途中、何組かの登山者と会う。

国見岳は6年前に樅木から登ったことがある。頂上の祠に変わらないが、直下にはもっと木々が茂っていた様に思う。今はスカスカの状態でかなり寂しい。

国見岳の標識では、椎矢峠まで3時間と書いてあり、このペースでは日暮れギリギリかと心配になった。少しペースを上げて、緩やかな下りを歩く。道がかなり荒れている。せつかくの目印の赤テープが巻かれた木が倒れていて、探しながら歩く。標識が見つかり、ホッとする。誰にも合わない。真新しいピンクのテープが紛らわしい。

16時半過ぎ、道を間違えたことに気づき、引き返そうか等悩むうちに、すぐ下に林道があることを発見。高岳を断念し、暗くなる前に林道歩きを決める。リーダーの方々は、椎矢峠まで車取りに

先行するとのことで、残りのメンバーは、ヘッドランプを点けて、ひたすら林道を歩く。18時45分頃、待ち合わせ場所の門割林道入口に到着。10分ほどすると、椎矢峠から降りて来る車のヘッドライトが見え、やがて無事乗車。距離17km強（カシミール3Dによる概算）、歩行時間、休憩含めて13時間。私自身、今までで最長時間の山歩きであった。昨日泊まった民宿で用意されていた、おにぎりの美味しかったこと。

山登りは自己責任と言うが、連れてもらう気安さから、ひたすらついて行くだけで、余り考えてこなかった。今回は、反省点も多い。地図等の下調べをしてなかったり、途中携帯の電池が切れそうになったり、ビバークするには少し準備が足りなかったりと。

最後に、リーダーの方々には、大変お世話になった。改めてお礼を言いたい。凡そ1.5倍の距離の林道を、われわれより早く歩く体力並びに経験に基づく臨機応変な対応・責任感に、非常に敬服した。



第5回「山の写真展」を開催

年末恒例の熊本支部会員・会友による山行の思い出として撮った山の写真展を、12月9日～23日までシェルパで開催しました。今回は新人を含め24点の応募があり、会場いっぱい写真が並びました。

25年度はたくさんの会員各位の応募をお待ちしています。

九州脊梁山脈縦走登山の足跡

第1回 2008年

- 9月27日(土) 舞岳部落～小川岳～
五ヶ瀬スキー場 「ヤマメの里」泊
9月28日(日) 五ヶ瀬スキー場～
向坂山～三方山～久保の憩「清流館」
参加者：工藤、永谷、加藤功一、加藤明、
広永、松岡、松本、石井、安場、
田北、田尻、計12名

第2回 2009年

- 10月3日(土) 縦木「山女魚荘」泊
10月4日(日) 峰越峠～御池～白鳥山
～時雨岳分岐～銚子笠～不田野林道
参加者 工藤、松本、田北、野田、足立、
椎葉、横尾、千々岩、安場
計9名

第3回 2010年

- 10月23日(土)「山女魚荘」泊
10月24日(日) 峰越峠～烏帽子岳
～五勇山～国見岳～五勇谷橋ゲート
雨のため烏帽子岳で中断、引返す。
参加者 工藤、松本、田北、野田、
坂西、横尾、安場、悦 8名

第4回 2011年

- 峰越峠～烏帽子岳～五勇山～国見岳～高
岳～椎矢峠を予定したが鹿の駆除のため
土日が入山禁止となり、中止した。



平成24年度会務報告

● 事業報告(4月～12月)

☆ 平成24年度第1回森林保全巡視登山

1. 期日 4月22日(日)
2. 場所 旭志 「鞍岳」「ツームシ山」
3. 参加者 9名

☆ 平成24年度阿蘇の山野草観賞登山

1. 期日 5月13日(日)
2. 場所 阿蘇北外輪～瀬の本高原～押戸石
3. 参加者 26名

☆ 阿蘇の山野草鑑賞登山

1. 期日 5月13日(日)
2. 場所 阿蘇北外輪山・瀬の本高原・押戸石
3. 参加者 26名(一般15名)

☆ 第6回宮崎支部との交流会

1. 期日 平成24年6月9日(土)～10日(日)
2. 場所 宮崎県「向坂山」・「白岩山～扇山」
3. 宿泊 宮崎県 五ヶ瀬町 「やまめの里」
4. 参加者 【熊本支部】18名 【宮崎支部】16名

☆ 第8回登山教室 in 宝満山

1. 日時 平成24年6月17日(日)
崇城大学市民ホール前7時30分集合
2. 場所 福岡県太宰府「宝満山」
3. 参加者 32名 参加費3500円

☆ 第7回登山研修会「菊池溪谷」沢歩き

1. 期日 平成24年8月5日(日)
2. 集合 菊池溪谷(現地集合) 午前8時集合
3. 場所 菊池溪谷(清水谷)
4. 研修内容 沢の歩き方、ルートを取方、足場
のポイント、水深の見極め方、基本技術
5. 参加者 12名

☆ 第9回登山教室「阿蘇南外輪山・地蔵峠」

1. 期日 平成24年9月9日(日)
2. 場所 南阿蘇村南外輪山地蔵峠～駒返峠
3. 参加者 会員24名会員外22名合計 46名

☆ 第1回SOアスリート登山教室

1. 主催 NPO法人「SON・熊本」(スペシャル
オリンピック・アスリート会)
2. 共済 公益社団法人 日本山岳会熊本支部
3. 期日 平成24年8月19日(日)
4. 活動場所 阿蘇・「鞍岳・ツームシ山」
5. 支部参加者 17名・保護者他13名
知的障害者 7名 計37名

☆ 24年度夏季例会「ビールパーティー」

1. 期日 8月26日(日)
2. 場所 交通センターホテル予定
3. 会費 3500円
4. 参加者 28名

☆ 第5回九州脊梁トレイルラン参加協力

1. 期日 平成24年9月22日(土)～23日(日)
2. 場所 脊梁「小川岳～向坂山～三方山」周辺
3. 宿泊 五ヶ瀬ハイランドスキー場
4. 参加者(協力者) 13名

☆ 第4回九州脊梁山脈縦走登山

1. 期日 10月6日(土)～7日(日)
2. 場所 脊梁山脈「三方山」～「国見岳」～
「五勇山」～「烏帽子岳」
3. 宿泊 宮崎県東臼杵郡椎葉村 「民宿尾前」
5. 参加者 A班 5名
B班 5名

☆ 第28回宮崎ウェストン祭参加報告

1. 期日 平成24年11月3日(土)～4日(日)
2. 場所 宮崎県高千穂町五ヶ所三秀台(記念
式典) 祖母山(4日:記念登山)
3. 参加者 熊本支部 11名

☆ 勤労青少年ホーム健康づくり支援講座

「始めよう山歩き」

1. 期日 10月23日(火)【机上講座①】:
10月30日(火)【机上講座②】

11月11日(日) 実技登山

2. 場所 机上:熊本市勤労青少年ホーム
実技登山:阿蘇「俵山」

3. 参加者 28名

☆ 第2回森林保全巡視登山「大金峰・小金峰」

1. 期日 平成24年11月18日(日)
2. 場所 八代市 五家荘「大金峰山・小金峰山」
3. 参加費 1500円
4. 参加者 13名

☆ 第5回「山の写真展」

1. 期日 12月9日～12月23日
2. 場所 山の店 シェルパ

支部委員会報告

4月役員会

1. 期日 4月26日(火) 18時より
2. 場所 ワクワクランド
3. 出席者 8名

5月委員会

1. 期日 5月15日(火) 18時より
2. 場所 ワクワクランド
3. 出席者 9名

6月委員会

1. 期日 6月5日(火) 18時より
2. 場所 わくわくらんど
3. 出席者 8名

7月委員会

1. 期日 7月19日(木) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 9名

8月委員会

1. 期日 8月14日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 9名

9月委員会

1. 期日 9月4日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 9名

10月委員会

1. 期日 10月16日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 8名

11月委員会

1. 期日 11月13日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 9名

12月委員会

1. 期日 12月4日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 8名

12月特別委員会(支部報編集委員会)

1. 期日 12月18日(火) 18時より
2. 場所 わくわくランド
3. 出席者 7名

2月・3月の行事予定【参加者募集】

◎第8回登山研修会

「雪山に登ろう in 往生・杵島岳」(担当:加藤明)

1. 期日 2月3日(日) AM8時市民会館集合
2. 場所 阿蘇「往生岳・杵島岳」縦走
3. 会費 3000円(バス代・保険料・その他)
4. 定員 会員20名・一般20名

◎25年干支の山「阿蘇・蛇の尾」(担当:安場)

1. 期日 3月3日(日) 集合未定
2. 場所 阿蘇市赤水「蛇の尾」・米塚他溶岩洞
3. 参加費 1000円程度
4. 定員 40名(一般を含む)

※24年度最後の行事です。会員会友の方の参加をお待ちしています。

お知らせ

JACの旗が新しくなりました

公益社団法人に移行した今年度、JACの旗が新調され本部から配布がありました。内容はほとんど変わりませんが、下部に公益社団法人の文字が入りました。

編集後記

平成24年度からJACは新しく公益社団法人として再出発をして1面がたとうとしています。社会に貢献できる山岳会として、広く一般に門戸を広げ、山登りの楽しさや厳しさを知らしめ、多くの山登り愛好者の安全と自然に対する憧憬を深める活動が実施されています。この支部報もその一環として発行し、山仲間の情報下としての役割を果たしています。今回は九州脊梁山脈の情報とその登山報告が特集された形となりました。また、山の日制定の起爆剤になればと思います